

# 義務教育学校とは何か、なぜ義務教育学校にするのか、どうにも分からない



大楽毛・阿寒・音別は9年制の義務教育学校に転換。将来の義務教育学校化への準備で新陽小は鳥取小へ統合。教育委員会がこんな将来像を「たたき台」として公表し、大楽毛で地域懇談会が開かれました。大楽毛の義務教育学校化（校舎は中学校を利用）は、4年後。阿寒湖義務教育学校に続いて、旧釧路市内では最初の義務教育学校となります。

- ① 小学校と中学校で、授業のやり方や人間関係が変わることから不登校がふえるなどの中一ギャップ
- ② 中学校での学力低下
- ③ 少子化
- ④ 学校の維持・更新費用の圧縮を理由に、全市的に小中一貫の施設一体型義務教育学校に順次移行する・・・こうした方針を今年度中に決定するため、素案が9月にも示される見通しです。

## 教員にはほとんど

### 説明せず進めている

懇談会では教員の参加が目立ちました。教員への説明はこれからで教員の議論はされていないようです。検討委員会には校長会・教頭会代表も入っていますが、教員の意見が反映されたとは言えません。まず、学校現場での丁寧な議論を積み重ねるのが当然です。

## 義務教育学校って、

### どんな学校なの？

町内会の役員は、「話を聞いて義務教育学校にしないといけないとは思えなかった」と発言。元高校教師も、「自分は小中別々の学校で学んだので、ノスタルジーがあるのかもしれないが、義務教育学校とは何なのか、わからなかった。」

教育委員会は義務教育学校が問題解決の切り札と言いたいのでしようが、では転換して不登校は減ったの？学力は伸びたの？という肝心の説明はなし。義務教育学校の方が「デメリットよりメリットが多い」と話していた



と説明されてもイメージはわきません。でも阿寒湖義務教育学校を例に、次のようなことが分かりました。

- ① 転換しても教員は減らない。
- ② 修学旅行は2回ある。
- ③ 制服は中2、指定ジャージは小5から着用。
- ④ 養護教諭は2名配置。
- ⑤ 阿寒湖学など、独自の学習に取り組める。
- ⑥ 小中の先生が単一の教師集団になり相互の授業に乗り入れしている。
- ⑦ 部活・同好会は吹奏楽は小中合同、野球・バレーは中学生が小学生のチームに参加してやっている。



## 9学年をひとつにして

### 大丈夫なの？

授業時間は小学校45分、中学校50分、理科室の備品などは一般的には小中別々になっていて、阿寒湖義務教育学校では実験台の高さは小中の中間のものを選んだことなど、統一しきれない課題もあるようです。体育館の使用も学年ごとに使い分けできていると説明されましたが「昼休みはかぶるので」「阿寒湖は子どもの数が少ない。都市部の学校ではそうはいかない」などの疑問が残りました。

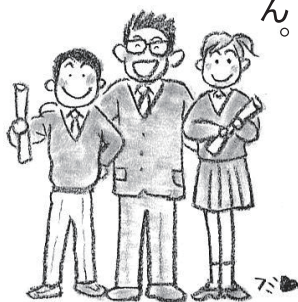
## 教員が減る問題を軽く見ている

鳥取・新陽のような小学校の合併で教員が減ることになります。しかし、教育委員会は、「教員の数を減らさないことより、課題を抱える子どもへの対応を優先」「1クラスの人数は学力向上と関係ない」という考えです。



うことです。

「1クラス20人くらいだと一番目が行き届く」「学力が伸びる子は、最初から自分で考え、学び、分かなければ先生に聞くという子が、複式学級でも教えたこともあるが、やっぱり少人数学級がいい。競争して学力が伸びるのは学年がもつと上がってから」と発言した元教員の方々がいました。学校は歩いて通える距離にあることも大事との発言もありました。遠くなったからスクールバスを出す考えのようですが、それで問題がなくなるとは思えません。



## 大楽毛小屋上を津波避難施設に!?

津波高の見直しを受けて、大楽毛小学校の屋上を津波避難施設に指定することを市は考え始めています。すでに庁内検討も始まり、近く結論を出したいと説明しました。防災の担当課に聞くと、屋上を避難所とするには外階段、フェンスなどの改修と、何人が屋上に乗っても大丈夫かの調査が必要になること。いまは建築部門も含めて、そうした検証しているとのこと。義務教育学校開設後に1・2階の校舎をどう使うのか、あるいは使わないのか、市はどういう結論を出すのか、注意深く情報を集めたいと思います。

22年7月24日号

村上かずしげ通信

発行 共産党市議団 23-5212